

| | | | | | |
|-------------|---|---------------------|-----------|-----------|----------------------|
| NETIS登録番号 | 技術名称 | ポラボックス | | | |
| QS-090032-A | 副題 | 環境保全型張ブロック | | | |
| 分類1 | 河川海岸 | 多自然型護岸工 | ブロック積(張)工 | キーワード: 環境 | |
| 分類2 | | | | | |
| 開発目標 | 省力化、周辺環境への影響抑制 | | | | |
| 技術の位置付け | <input type="checkbox"/> 推奨技術 <input type="checkbox"/> 準推奨技術 <input type="checkbox"/> 活用促進技術 <input type="checkbox"/> 設計比較対象技術 <input type="checkbox"/> 少実績優良技術 | | | | |
| 特許 | <input type="checkbox"/> 有り (特許番号:) <input checked="" type="checkbox"/> なし | | | | |
| 技術賞, 審査証明等 | <input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明 | | | | |
| 問合せ先 | 会社名 | 株式会社 ヤマウ | | TEL | 092-872-3351 |
| | 住所 | 福岡県福岡市早良区東入部5丁目15-7 | | E-MAIL | yamasaki@yamau.co.jp |
| | 担当者 | 山崎正隆 | | | |
| 実績件数 | 国土交通省 | その他の公共機関 | 民間等 | | |
| H26.8.31現在 | 2件 | 11件 | 0件 | | |

技術概要: (300字以内)

河川護岸におけるブロック張工において、製品内部の大きな空間による十分な土量の他に植物の根毛が地山まで伸長する構造により、植物の生育にとって必要な水分や養分を十分に吸収することができる法面構造を構築できます。さらに即時脱型コンクリート製品製造マシンを使った製造ができるため、製品の製造期間を短縮することが可能となり、緊急時の製品対応も可能なポーラスコンクリート製護岸用張ブロックです。

「従来技術と比較して何を改善したのか」

- 従来、河川護岸に植物等が自生する空間を創るために大型連節ブロックを張工として施工し、その上に土砂等を覆土する構造で対応していました。しかしこの構造では覆土を厚く施工することがあまりなく(20~30cm)、また流失しやすい構造でした。
- 覆土は製品で遮断されているため保水能力は非常に小さく、植物にとっては厳しい環境でした。
- 大型連節ブロックで対応する場合は鉄筋を使って連結する方法が一般的ですが、鉄筋を製品にあいた穴に通し連結する方法は作業がし難く大きな労力を要していましたし、連結金具としてシャックルを使用する場合でも一般的なシャックルの形では狭い空間に必ず両手をいれて作業をする必要があったため、非常に作業がし難いという欠点がありました。

「期待される効果」

- 製品内部に大きな空間を設けており且つ周囲をポーラスコンクリートの壁で囲んだ形状となっているため、内部に充填する土砂は流失し難い構造になりました。
- 製品はポーラスコンクリートで製造しているため、その連続空隙により法面と覆土の間はポーラスコンクリートを通して水分や空気の行き来が可能となり、植物に必要な養分が枯渇し難い構造となりました。
- 製品同士は連結金具を使って連結する構造とし、その金具も螺旋状の金具を使用するため連結用の鉄筋に引っかけさえすれば下に落ちることはなくなり、とても簡単且つ安全に金具連結作業ができるようになりました。

「適用条件」

- 現場条件
緩勾配護岸において、植物の生育空間を必要とするところ
従来品と同様に、所定のクレーン等が搬入でき、仮置きスペースも含め作業スペース全体が約123㎡以上確保できる場所
- 技術提供可能地域
平成21年度現在では、四国全域、九州全域

「適用可能な範囲」

勾配が1:1.5以上の緩い勾配であれば適用可能です。
※1:1.5の場合は別途打合せが必要です。

「適用できない範囲」

法勾配が1:1.5より急な区間

「写真・図等」



■ 標準施工断面図

